ウヰシヤルド氏

漢洲茗話

大阪　福音社發兌

特46
602
No.17178/2

緒言

近世米國新約克府エル、テー、ウヰシヤルド氏吾國に來り熱烈の勢を以て道を四方に傳ふ其結果顯著にして號泣胸を打て悔改する者あり是れ偏に天父至愛の德の致す所豈に深く感謝せざる可んや本書の氏が去る五月大坂青年會館に於て演說せし者の筆記に係る予や記性鈍く且つ彼の速記法にも通せず故に遺漏の廉少からざるべしされども又予の輕率に之を世に公するあらず悉く皆譯者の檢閲を經たり蓋し氏の演說の如き言外一種の異能ありたとひ英語を解せざる人にても氏が一擧手の間譯者の通辭を俟ずして感激止む能はざらしむる者あり又譯者宮川君の嚴肅銳利にして忠胸を刺が如き本間君の流暢優美にし

て俗臆を洗ふ如き異あ予の直寫する能わざる所あり若し夫れ讀者本書あよりて其演説の大体を知り又當日來會せし諸君之を以て他日の備忘録とあし以て幾分か信道の心を勵ますを得ば予わ予が本書に對せる責任の全くせられたるを喜ぶのみ

明治二十二年七月上浣大坂ゐ於て　筆記者記す

ウ井シヤルド氏演説筆記

中川内十郎　編纂

○米國及び日本學生中ゐ於ける基督教の運動　（宮川氏通譯）

今日わ雨天ゐ係らず斯くも大勢の學生諸君が來臨せられたるを謝す諸君の記憶せらるゝ如く數週間以前予わ此堂ゐ諸君と會せし事ありしが今度の演説も之ゐ續きたるものと知らるべし予わ日本ゐ渡航せし以來眼を注ぎて基督教の勢力如何を視察するに日ゐ月ゐ進歩の有様あり殊ゐ此頃わ官設諸學校中ゐも其勢力を及ぼせることを見出したれば今此点ゐ付き聊か演説する所あるべしされど本題に入る前先づ此演説の大要を摘んで述べ置くべし

今予が述る所の「彼樣あそべし此樣すべし」との臆說ゐ非らずして日本又の米國ゐ於て現實見る所の事實を其儘に述る者ありすべて臆說の演繹法ゐ基く者ゐて從來諸學說の之を基として其上ゐ立たるも今日の一般ゐ歸納法ゐ由て觀察し其實驗せる事實を述る事となれり予も今此の法を取り基督敎が世に勢力を及せる事實を列擧せんとす、諸君の此事實を攫んで自ら胸裡ゐ論結せらるべし彼のコポルニカスの天文說が歸納法ゐ基きたる如く宗敎上の事も同じく此法に則り事實ゐ訴へて論証せらるべきものあり故ゐ諸君の最も考ふべきの基督敎の基督降世より以來すべて事實上ゐ組立られたる敎なりと云ふあり然り而して今事實上の觀察をなさんため基督敎と高等敎

育の關係如何を調べし抑此兩者の恰も車の兩輪の如く決して偏廢す可らざるもの也彼のプロシヤ、スコットランド等の基督敎の進歩せし原因も其高等敎育と併進せしゐ由らざるのなし世の敎育の進歩を妨るの何故かと云はゞ畢竟自由敎育を取らざるゐよる今や日本ゐの自由主義の敎育行のれ居るを以て益々進歩の望あり米國ゐの現ゐ一千万の青年ありて其中高等敎育を受たる者十万あり而して殘餘の高等敎育を受けざる者にて其信者の不信者ゐ於ける平均の二十二と一の割合ゐて高等敎育を受けたる者の二人と一人の割合なり見るべし基督敎の無學社界より學者社界ゐ殆ど十倍の勢力あるを然れゞ今米國ゐ於ける敎育ある青年十万人中其半即ち五

万人が基督教の信者あり其信者たると云ふゝ如何ある意味あるかと云ふゝ彼等公然信仰を認ゝして教會員となれるの意なり其外基督教の道徳の完全なると、智識上貴ぶべき教あると、其事實の眞あると等を認め之に抵抗せざる者ゝ實ゝ多かるべし

プリンストン大學教授マコッシ氏が同大學十五年目の卒業式演説ゝ其以前十五年間卒業生徒二千人を出せる中不信者ゝ僅ゝ十七人ゝ過ぎざりしと云へり又彼の米國中最も高等なるハワルド大學の如きも現今千四百人の學生中無神論者を捜し出さゞ僅かゝ二八位ゝ過ぎざるべしかく學生社界ゝ基督教の勢力を振ふものゝ何故ぞや本教ゝ實ゝ事實の上ゝ基ける者あるが故あり又哲學或ゝ歴史の學ゝあらず實ゝ一人一個の志想を高尚に

そるものなるが故あり而して人々基督が神の子あると腦ゝ腦ゝ認め能ふも之を信仰する能ゝざるゝ何ぞや其行の惡しきゝよるあり故ゝ智識上基督教の眞理を認るも公然信仰を認はすと能ゝざるゝ其心の惡きゝ由るものと云ゝざるを得ず諸君の中果して此の如き人あきや

亞米利加ゝ於て何故基督教が斯く教育ある人士の中ゝ勢力を占め得たるか是れ道理あるとあり彼等米國の學生ゝ一の團結体を組織し此宇宙ゝ基督教の外人を救ふ者なしとて青年社界ゝ生命を與ふるとに汲々せり

英吉利獨逸の如きも同じ有様なれど殊ゝ米國ゝ於てゝ然りとす彼等ゝ其同窓學生に向ひ基督教の眞理を説き正直と實意を以て丁寧ゝ之を導けり而して米國の青年會ゝ其數幾千ある

のと云ふに前陳の期望を以て結合せる者其數一万二千の多きあり彼の文學、交際、運動等の目的を以て組織せる諸團体のすべてを合するも青年會いなほ其三分一多き割合あり而も此青年會いたゝ亞米利加内部わのみ基督教を擴張するものわあらず廣く外國わある青年をも導かんとして必至力を奮へるなり

かく亞米利加わ於て教育ある青年が全世界わ基督教を弘んとの志想い何わ基くものあるか他なし基督教い人間の德義を高尚わする者又之い事實なり眞理なりとの天然の誠より發せるものなり予い今日本に來りて在來の古き教を攻撃することを好まず彼等反對者の中わい無理わ理屈を作り二二が五と云ふが如き說を構へ或い太陽が地球を廻

ると云ふごとき說を爲すものありとも少しも頓着することなし予いたゞ正直わ二二が四、なることを示し、地球太陽を廻ることを說くべしそれ或る眞理が一の國わ適するとせば必ず他の國わも適する道理なり甲の國に行いるゝの眞理乙の國わ行いれぜと云ふ道理あるなし、たとへば今日文明の利器たる蒸瀛船車、電信の何れの國にも用ひて適せざることあるきが如し今基督教わ於けるも然り亞米利加の青年い此眞理を信せるが故又基督教を他國わも布き及ぼして共に人間の幸福を享受せんと欲そるものなり

今諸君わ問ふべき事あり從來日本わい神儒佛の三教弘れることあるが諸君の中或いその孰れかを眞理と思ふ者あらんか、る人ありとせば何故之を外國わ弘むることを勉めざ

る乎もし其道具理なりば外國人中教育ある者い喜んで之を聞かん而して之を外國に弘むるの念おきい其理由推して知るべきあり亞米利加にていい二三年以來三千人の教育ある青年い日本支那印度等に送れ實に止む能ざるの至情彼等の胸間に勃興せしが故あり亞米利加の清年何故此決心を起したるか深き原因の存するあり事委しきといい明日の演説にて明かなるべけれども まづ摘んで云いい彼等い皆あキリストの神の子あるとを信ずと云ふとなり是いたい米國の青年に止らず蘇格蘭英蘭の清年までも皆に同一の信仰を抱けり蓋し基督の神子たるといい多くの説明を要すべき問題あれば詳細い他日に譲り一二論証をるのみにて止むべし兎も角米國の清年が

かくの如き赤心を有せるものい深く基督の神あるとを信せるが故ありとのとを諸君の心中に留置れんとを望む

基督が神なるとに付ていい多くの道理証據あれども其一を擧れば預言の符合を以て証するとなり今仮りに譬喩を以て之を説かんに往古日本の文書中に、西暦紀元千八百五十三年米國水師提督ペルリなる者相州浦賀に來り互市條約を求む續て西洋の諸國來りて同樣の請求を爲し同六十三年德川幕府倒れ王政復古し其後同八十九年皇帝陛下憲法を發布し立憲政体の基成ると記せる事あらば古の人果して如何なる思をなせしぞ必ず皆空想妄説として之を捨んれども今日よりして見れば此等の事實い悉く應驗せしを以て最早之を目して夢物語と云ふを得ざるべし基督教

の預言もやゝ之を類せり昔時基督の前即ち紀元千五百年頃より四百年頃に至るの間多くの預言者ありて皆基督の降誕を預言せり又其預言者の筆せる舊約書に悉く紀元前四百年頃に至りて世に出で其原文にヘブル語なりしを紀元前百年の頃希臘語に翻譯せり此預言の應ずる前或は之を以て夢物語と目せしものあらん然ども今日既に基督が降誕して其預言の應せし後に最早之を拒と得ず我儕は實に預言に神の能より出たるものと云の外なきあり之を面て觀れば基督教に神の默示に由る敎なると明あり

今爰に一の凱旋門を建んとせば必ず二本の柱より成り立たざるべからず基督教を一の凱旋門とせば基督の性質と預言に二本の柱たるありもし古昔の出板に係る書を今代

の發明に係る電信の事或は天文の事に抵觸せるときは人以て大に驚くべし基督教の聖書を讀み其預言に至るときは實に之と同樣の感想を起すべし然れども猶ほ深く研究するに從ひ諸君は基督が神の子なることを認め再び大に驚かるゝことあらん

予は殊に諸君の注意を促すべきことあり予は近頃東京に於て大學六百の學生中三十人の信徒あるを發見せり其他第一高等中學千二百の學生中三十人の信徒あり又商業學校五百人中四十人の信徒あり是等はたゞ基督を信ずると云ふに止らず互に結合して學生社會に固より校外者にまで福音を普及せんことを目的とせり予彼地に留れるとき農學校より招かれたることありしが爰に三十人計の信徒あり

又職業學校に於ても同じ有樣なり其外岡山醫學校に三十人の信徒ありて之を全生徒に比例すれば十二と一の割合ありと云ふ此等皆な公然信仰を認はして福音の眞理を傳播せんと力る者あり

聞く所によれば日本新教信徒の數に二万五千ありて之を全人口三千八百万に割當れば千五百に一の比例ありと云ふ而して高等教育を受けつゝある學生二千五百人として其中の信徒を以て割當れば十八に一の比例あり之を以て通常人よりも學生中に基督教の勢力大なるを知るべし予が近頃東京より西に長崎熊本に至るまで其間に在る官立諸學校を訪ひしが彼等教育ある者に概してよく予の說を聽きまた何處にても正直に基督教を研究せんとする者の起立を請ひしに其起立せしものの多く學生ありき之に基督教主義の學校なれば さもあるべしと云る者あらんかなれども予が西京同志社を訪し時其學生七百名中三百五十名の信者ありしが予の演說後求道者の起立を請しに起立せし者百三名ありしが後ち皆信徒となれり新嶋校長の話に一日に百名余の者受洗せしに日本基督教開闢以來之を以て始とすと云れたり其他東京の明治學院あり熊本の英和學校あり其學生の過半に基督教を信ずる者あり此等學生が眞理を信奉せるに彼の無學文盲の人が十分の思慮なくして信ずると同日の話に非ず其心に十分眞理を認て信仰せる者あれば未頼母しき事と云にざるを得ず

あゝ此千八百八十九年に日本米國基督教運動上實に目覺

しき進歩を現はせる祝ふべき歳なりと云ふべし就中最も驚くべき一事起り來れり米國にて從來有名の説教者ムーデー氏の住地に於て夏期學校を開き基督教の眞理を研究するとあるが今年も定めて千人に下らざる學生四方より集ひ來るとなるべし且つ今年の日本の學生も其處に集り來る筈にて彼の維新の際京都に於て刺客の難に罹りし横井平四郎氏の息或の故三嶋子の息も其地にありて共に日本學生のために夏期學校を教授する由なり而して日本に在ての今年を始とし西京同志社に夏期學校を開んとの企あり之に來會する者定めて多かるべし

予が東京に在る頃一學生の最も此事のために周旋せるを見受けたり彼の大學中に於て最も智識あり學術に長せる

者なり彼地よりも夏期學校のため委員を選んで京都に送らんとせり斯の如くにして進まば將來基督教の進歩の如何ぞや實に望み多き前途にあらずや

獨逸にての「獨逸の青年獨逸を作る」と云へり日本に於ても青年日本を作るべし日本人民の今や立憲國の民となれり之と共に基督教の運動も活潑なる時運に際せり殊に青年社會に於て基督教の勢力を發揮するに至れり嗚呼陰府の門如何でか之に勝を得んや諸君益す精神を勵まし正直實意に此眞理を研究し以て大に爲す所あれ

○基督教の事業に於る聖書の効用　（本間氏通譯）

世間の事業の何事によらずそれ相應の方法あれば其事の

成就せざるとあらざるなり言を換へて云へゞそれを支へる丈の力あれゞ何事も成就するものあり或る學者が一の鉄梃を置くべき場所あらゞ地球を動そとを得べしと云ひしがもし斯樣な鉄梃が作られ之を置く場所あらゞ眞實地球を動すことを得るなるべし越歷氣の力ハ大なる者ありと雖ども人間の力を借らざれゞ其働きをなすと能ハずたゞ越歷氣のみならず蒸瀛力さへも人間の力を借らざれば有益なる働きをなす能ハず反つて害毒を流すとあらん

今我儕基督信徒の眼前ハ横ハれる事業ハ隨分偉大の事業あり日本を基督教國とするハ中々容易の業ハあらずされども是亦相應の力即ち宜き方法備ハるときハ何の苦もあく其目的を達し得べし既ハ是迄他國ハても經驗せる所な

れば決して困難事として失望すべきハあらず提摩太後書三章十六節十七節を見れゞ其方法を明示せり「聖書ハみな神の默示ハして敎誨と督責また人をして道ハ歸せしめ又義を學しむるハ益ありこれ神の人の完全を得て諸の善事を行ふハ欽なからん爲なり」と是れ基督敎事業の方法即ち力ハ何物なるかを示せるものなり今や此大ある力と方法機械ハ日本全國ハ入り來れり宜しく之を使用せざるべからず此神の默示即ち聖書ハ恰かも日本を基督敎國とする ハ付て一の力たるあり既ハ此方法卽ち力備はりたりとせゞ豈ハ其目的を達せざるとあらんや而して此偉大なる事業を爲んハハ必ず智慧を要すべし其智惠の出所ハ付てハ雅各書一章五節を見るべし「爾曹の中もし智慧足ざる者ハ

らばかの答ることをおくして惜しことをおくして衆人わ予る神わ求よ然ば予られん」本文「求めよ」とあり之を求るわい絶へず新りて求むべきあり而して神い如何わして之を與るか神い我儕人間のごとく音聲を發して答るとなる乎否然らざるべし我等の本心わ感得せしむるか我儕の本心も亦弱きとあり然らば之を知るわい聖書わ求むべし聖書わ教へらるべし聖書い神の返答の辞なり多の人い此の道理を悟らず故わ神わ求るも神は答へずとして失望するものあり約翰傳十八章七節「爾曹もし我に居ば また我いひし言なんぢわ居ば凡て欲ふところ求わ從ひて予らるべし」とあり神豈に答へざるとあらんや而して聖書い神が我儕わ答ふる方法なり從來世の學者政治家も聖書を神の答ふる辞とあせり米國

有名の政治家ダニエル、ウェブストルの如きも聖書い神の祈わ答へたる者とあせり

彼得前書二章二節「今生れし嬰兒が乳を慕ふ如く爾曹心を養ふ眞乳を慕ふべし此に由て爾曹長て救わ至らん」とあり我等信者い生れ變りし曉より始終神よりの乳を受け達者なる信者となるのみあらずまた人を益する者とならざるべからず基督い神より出るパンの必要を説き教へしが之と同一の譯わて我等の常わ神より養いるべきことを意味せるありたとへ廿年卅年來道を信じたる信者たりとも常わ心わ養を受け心の腦、心の筋肉を強くせざる可らず

もし神の道我等の心わ止らば我等病氣の身わても弱き身わても小兒であれ青年であれ老年であれ皆強剛き者とな

るべし約翰一書二章十四節「壯き者よ我この書を爾曹に贈りしは爾曹剛健かつ神の道あんぢらの心に存て惡者に勝るに因てなり」とあり此句の「剛健」とは腕力の强きを云ふに非ず智力の盛なるを云ふに非ず神の道なる乳を飲みて段々其心の生長發達せるとを云ふ也予は生れて以來年久く安息日學校の教育を受たるを以て深く此語に就て感ずる所あり若我等の心に神の道を會得するとなくば如何に信者たりと云も鳴銅や響く鉦の如く何も益なきものなり

又た健剛なる外神の道によりて聖靈の能を受くるものなり古代の歴史を披き見るに各國人民相戰ふの器械は皆な刀劍にして多くの勇士は手に〳〵劍を把て敵に對へり之に進ば如何なる鉄衣甲冑も特むに足らざるなり以弗所書

第六章十七節を見るに「救の冑および聖靈の劍すなはち神の道を取り」とあり恰かも古代の武士が劍を以て其身を扞ぎしごとく信者も神の道を劍として敵に對ふべし然らば如何なる敵にても容易に降伏せしむることを得るなり百人千人の男女を擒にして正道に歸せしむると易々たるのみ彼の名高きムーデーの「眞理を防ぐなり」といへり人の眞理に對へば力なき者なり故に此眞理即ち神の道、聖靈の劍を把らば少しも之に敵し得る者なかるべし

斯神の道は聖靈の劍なりとせば我等此世に於て活潑なる働をなさんには常に之を磨き之を鍛よく之を使用して其切味をあらはすべし基督は惡魔の試惑に逢し時一々神の道を引て之を防げり我等も亦心中常に此備なかる可らず

それ剣の用ゐ人を殺すゐ在りされど神の道ゐ鋭くして両刃の剣の如くあれども人の生命を絶つものにあらず否人を生するものあり路加傳八章十一節を見るゐ基督ゐ神の道を種ゐ喩へたりすべて種ゐ極めて小けれども生命を有る者あり嘗て一博覧會ゐ於て今より千九百年前ポンペイ府滅亡の時地下ゐ埋りし麥種の陳列せられたるを見たり此種地下に在りても生命を失ふとなく後ち諸方ゐ擴がりて幾百万倍の實を結びたるものあり神の道ゐ幾百千万年繼續するものなるか計られず初めゐ細小の種粒なれども段々大きく擴がりて量るべからざる程ゐ至る之れ神の道を種ゐ譬へし所以あり

種ゐかく生長繁殖するものなれども初め又之を播くとなかるべからず聖靈の種ゐ大なる力を持つ者ゐて一度之を播けば大なる結果を得べし一粒の種岩山ゐ落つ初めゐ少けれど漸々生長し大木とならば岩をも破裂せしむべし今此ゐ水呑コップあり之を砕くゐ二の方法あり一ゐ之を床上ゐ擲て粉齏に歸せしむべし然れども一ゐ極めて靜なる方法ゐて此中ゐ水を入れ之ゐ種を投ずれば遂ゐ芽出で葉繁り根蔓りて之を張り裂くゐ至るゐり諸君ゐ今日現ゐ己の心中、或ゐ教會の中、或ゐ社會の中ゐ於て基督教が恐るべき勢力を得つゝあることを承認せらるゝゐらん此れ神の道の種が漸々蔓延繁茂せる者なり

神の道ゐ又人の心の病を醫する良藥ゐり聖書ゐくば如何なる教育ありとも如何ゐる法律ありとも決して社會を改

良すること能はざるあり既に此聖書は英に米に蘇に大なる効力を奏したり諸君は今日本の病を醫するに支那に向て藥を求んか天竺に向て藥を求んか或は學術又は哲學を以て之を醫せんとする乎予は信ず此聖書を措て他に又世に適當の良藥あることを

世の無神論者哲學者は種々難問を搆へて基督信徒を當惑せしむるとは青年諸君が日常經驗する所あらんされども諸君にして能く神の語に通せば彼等に對ひ勝ち得て餘りあるべし聖書は實に彼等の反對論に對する辯論材料を以て滿されたり彼の神の忠僕あるムーデー、ウエスレー、ホイットフヰールド、ルーサー、ノックスの輩が此の如く勇氣に富みて成功ある働をなせしもの一にあたゞ平生深く聖書を味へたるの致す所と云はざるを得ずアブラハム、リンコルンは凡て爭論を審くに妙を得たる人なりしが別に長技ありと云ふに非ず常に精密に原彼両造の間に立て十分彼等に滿足を與ふべき程に取調たりと云我等も十分深く聖書を研究せば大に悟る所あり有名なるウオーダー、スコット死に臨み其養子を呼び其書齋にある一冊の書を持ち來れと命せり彼の書齋には万卷の藏書あるを以て其何の書あるかを知る能はず押返して之を尋ねしに又スコットは答へて曰く勿論他書にあらずたゞ一冊の聖書なるのみと

昔しダビデは年少にして剛の敵ゴライアと戰へり彼れ少も臆する氣色なく靜々進み出で、容易く敵を打ち果した

り是れたとへ彼れ弱くとも大能の神其後へゐ扣へたれば如何ある敵も己ゐ打勝つと能いざるを信じたるが故あり今諸君い年弱く經驗も亦深からずされども神の力諸君に在らゞ如何ある反對論も抗敵すると能いざるべし少去も恐るゝゐ足らざるあり而して如何ゐして神の力を得るかと云いゝ他なきあり細心精密聖書を研ぶるゐ在るあり

（宮川氏通譯）

○キリストとソクラチス

予い今日學生諸君の前に立て基督教の信仰い一の確實なる証據ゐ基くものあるを説んとすれど之いたゞ概畧の話ゐ過ぎず諸君が日々學校ゐて科業を學ぶ時教師い學術又い哲學上の問題ゐ付き概畧其材料を供述し其判斷い一ゐ諸君ゐ任すとあるべし今予の演説に於てもたゞ大体を述るゐ止まれゞ諸君自ら論理上或い智識上ゐ訴へて歸結せられんとを望む

今本論ゐ入る前二三の要點を示し置くべし先づ（第一）キリストい歴史上の人物ゐして今より千八百年以前確かゐ此世ゐ住み、しとの事なり、それ十九世の今日に至る迄西洋各國の人い非常の敬愛を以てキリストを神とし仕へたるがこれキリストが千八百年の昔絶大の事業をなせしい事實にして之を拒むと能いざるを以てあり或人嘗て「キリストの生涯と其教を見て眞ゐキリストなる者存せしとなく誰か他ゐ人ありて此の如き事を考へ出せしものありと云いゝ其人必ず之と同樣の人たらざる可からざるあり」と云り

（第二）聖書ハキリストの生涯と教義を示せる歴史上の証據なると、人あり此聖書を見て或ハ默示とせざる者あらん或ハ誤謬あるべしと云ふ者あらんよし一歩を譲り之ハ默示あらず又誤謬ありとするも決して之れが爲ハ聖書ハ全く破棄せらるべきものにあらず我等先づ其大体の事實の眞なるを認めざるべからざるなりたとへバ人ありて日本の古ハ德川家康ある者なかりしと云ハんハ家康の言行ハ既ハ世ハ傳ハれる事なれバ決して之を歴史中より取り消すと能ハざるべしキリストの言行の聖書上に顯ハれたる事實も亦此の如し決して今より之を滅すると能ハざるなり（第三）ソクラチス、プラトー、或ハプロード、ベーコン等の一生涯を見て証據するとキリストの生涯を見て証據するとと

ハ種類に於て異ある所あしたい彼等諸賢とキリストとの間ハ度に於て違ひあるのみ

以上三の要件を心ハ止めて然る後ちキリストとソクラチスとを比較すべしソクラチスハそのハ昔し文明の母ともいはれたるアセンスハ生れ少くも三十年の間當時世ハ名だたる學者と交りて其志想を養成せりプラトーハ二十歳ハしてソクラチスの門ハ遊び之ハ師事すると十年其間ハ恰かも今日書生が學校に在りて互ひハ研究練磨を積で大ハ他人の感化薫陶を受ると少も異ある事なかりしあるべし後ち彼れ各地を漫遊しイタリア、スペイン等ハ至り碩學鴻儒の門を叩けり彼の初めて書を著はせしハ四十歳の頃ハれバ其迄二十年間ハ弘く天下の學者と交りて其志想を養

成せしものと知るべし

今眼を轉じてキリストの生涯を見るわキリストハ未だ文明國を遊歷せしとなし其一歳の時ガリラヤ國中最も賤むべき最も名もなき常わ一般國人より蔑視されたるナザレわ赴けり彼の弟子パウロハ大學者ガマリエルの門下わ遊びしとあるもキリストハ絶へて此の如き事あく其身わ於てハ此世の學問教育を受けしとあし幼少より何の準備もあく突然世に出でし者あり之わ就きまた三の事を考ふべし(第一)キリストと彼の賤むべきナザレ村わ成長せしと、當時わ在てハ是といふ學者もあく書籍もなしもし今日諸君の一人を両親が他日聖賢の地位わ立たしめんとの考より漁村わ送り遣り漁郎蚤子と伍せしむるとあらバ如何果して其目的を達し得べき乎キリストハ實わ此の如き境遇わ置れたり(第二)當時キリストの周圍の人々ハ彼わ就て何を云ひしか彼等皆な云へらく「此人ハ未だ學びし事あし如何わして此の如き事をなすか」ともし今日學問あき卑賤兒が東京の學士社界わ飛出して深遠高妙なる眞理を語り神と靈魂との關係などを說くとあらバ如何昔キリストをよく知れる所の其隣人ハ「如何わして此の如き事を爲すか」と驚き合へり之を以てキリストハ決して學者の薫陶を受けし者あらざるを知るべし(第三)諸君が獨逸、以太利、スカンヂナビヤ卽ちスエデン、ノルウエー等各國の諸書を翻きし後ちセーキスピーヤの戲曲を讀むとありとせよ彼ハ甚だ博學なりし故其書中にハ是等諸國文學上の雅味を帶びたり其

時此諸國の文學ゐ達せる諸君ハ必ず明瞭に其出處を悟るべし今此聖書を繙くゐキリストハ孔子より五百年後に出でたる人あるがもしキリスト孔子の書を讀みしとあらバ必ず此中其說きし處の者を包含せるゐ相違なし又キリストハソクラチス、プラトー以後の人なるを以てもしキリスト彼等の書を翻きしとありとせば此中必ず彼等の考說を見出すゐ相違なかるべし然るゐ聖書中決して此の如き迹あきのみならず其說く所ハ全く創造的の敎義ゐして彼等諸賢より出でし者にあらざるゐり是れ千八百年間歐米諸學者の深く研究して確めたる所ゐり

今又ソクラチス、プラトーの働を見るゐソクラチスハ三十年以上敎をおしプラトーハ四十歳より八十歳まで四十年

の間働をおせり然るゐキリストハ何の準備もおく三年足らずゐして此の如き大業をなせり亞米利加ゐてハ男子十八九歳ゐ至るまでハ大學豫備のため四年の日月を費し後の大學を卒へ世ゐ出でゝ事業を執るまでハ必ず七年の日月を學窓ゐ費すべし今キリストハ一生涯の大事業を三年足らずゐして成し遂げ而も別ゐ豫備せしともおし而して其敎へし道德ハ古今天下無双の摸範とあれりかく短日月ゐして此の如き大業をおすゐ蓋し尋常人の能くする所ゐゐらず予ハ此事の諸君が最も謹嚴ゐ考究すべき問題おるを信ず

貴國の有名おる一政治家の言ゐ日本の前途憂ふべき事甚だ多し就中德義上の基本未だ立たず將來如何ゐして國是

を定むべきかといはれたりそれ基督教の道徳ハ實ハ全世界の人心を感化せんとせりこの道徳ハ空論ハあらず實驗的の物たるあり諸君の中ハ醫學生あらん試に見よすべて藥品ハ一病ハ益あるも他病ハ害あるものハて決して世ハ所謂万能膏なるものあるなし而してキリストの教ハ此人ハ適して彼人ハ適せずと云ふが如きとおく世界万民ハ通して適當せるものなり世の最も汚れたる者ハても其感化ハよりて高尚ある者とあり得べし此藥を飲し者ハ實ハ皆其病を癒されたり

ソクラチスの教を見るハ始より終ハ至るまで「もしも」の語を以て滿されたり通例議論ハハ前約と對約とありて種々の事柄を引用して結論するとなるかソクラチスも此法ハよれり又其教を記せる者を見るハ多のイントルヴーションヤーク疑問点ありキリストの教ハ之と異り始より結局を説き出し深遠高妙の眞理を何の苦もなく躊躇おく明白ハ説き去れり則ちキリストハ頭より斷定の詞を以て人心ハ打ち込みたりソクラチスの他諸賢の教ふる所ハても種々順序を經て成る程遂ハハ結局ハ達すべし然れども非常に論理上想考の力を費して後漸く歸結ハ達せるものなりキリストハ少も難澁の迹おく恰かも清泉の岩間より迸出するがごとし之れキリストの心中ハハ眞理の水充ち備はれる故別ハ迂遠なる解釋を試みるの用なかりしものならんたとへば此に三個の物ハり其二ハ他の一ハ同じければ其二ハ相同じく或ハ全部ハ其すべての部分を合したるものハ等しと云ふを我等疑ハ

ずして信ずるが如くキリストの心中わいすべての眞理備はりて少も想考研究の勞を要せざりき

今一の重要あるハキリストの敎ハ万古不變なるとあり凡て學術あり哲學なり日わ月に進歩變轉して今日最上の眞理と思し事も明日ハ已わ誤謬として棄却せらる彼の光熱電氣の事抔一の臆說ありしも今ハ新學說の出しが爲わ倒たり或ハ星雲說の如きも今日わ於てハ十分學者の滿足する能ハざるものとなれり有名なるヅラモンド氏親く予の前わ語しとわエヂンボルグの敎授シムソン或時其書籍係わ對て書籍館中最も高尙なる數冊の書を高閣わ束ねよと命せ玄とあり數年前定說と認られたるものかくの如く動かさるゝわ至れるありとまたソル、ウヰリヤム、タムソンが

英國の或る處わ演說せし言わ「蒸滊力の運用ハ近世の一大奇跡なりしが電氣力の開發せらるゝわ從ひ影を匿くすわ至るべしと云へり蓋し世の事物の變遷窮りなきを云ふなり然るわ基督敎ハ之わ異りキリストハ天地ハ過ぎ去るも我語ハ過ぎ去ることなしと云へり今日本わても日を逐ふて基督敎進歩の勢あり更わ退歩の色なし實わキリストの此語の應ずる日來れるものと云ふべし

今より數十年前非常なる力を以て歐羅巴を震動せしめたるナポレオン云へるとあり「一事我を驚かすナザレのイエスハ人心を攫み去れり我一令を出せバ千万の軍馬立どころわ動きて非常なる働きをなしたるも今やセントヘレナわ謫されて後また如何ともする能ハず我身を圍繞せるも

のみたい岩石のみ世のイエスを信ずる者を見るわたい宗教上の道理を信ずるのみわらず實わ彼を愛して其ためわ死せんとする者幾千百万あるを知らず予ハよく人を識るイエスハ眞わ人間以上の者なり」と予ハ今諸君に問ハん諸君の中ソクラチスを愛し其爲めわ死を厭ハざる者あるか釋尊ハ清き生涯を送りたる賢者なり誰か其一代記を讀み其爲めわ死んとするの情を起すものあるか彼の頑迷妄信事理を辨へざるの徒ハいざ知らず苟も自由獨立の志想を懷ける諸君の中此の如き人幾何ありや亞米利加わハ多くの青年わり彼等ハ實にキリストのためわハ死をも厭ハざるものなり而してかく強く志向を定むるわ至りしハ生きたる復活りたるキリストを信ずるに由ありキリストハ

今も茲わ在り諸君と共わ在り此キリスト諸君を活し勃々至誠の念を起さしむべし

如何ある大聖人わても其生涯中わハ必ず瑕瑾汚点を見出すべしソクラチスハ嘗て或人わアスキユラスの神廟わ禮物を献ぐることを勸めし事わり然れどもキリストの生涯ハ純正高潔わして恰かも芙蓉峰の天に聳るがごとしキリストハ嘗て衆人の中わ立ち「爾曹の中我わ罪あるを見出すか」と云ひしとあり通常人わして此の如き言を吐かバ最も自惚者と云ふべし然れどもキリストわハ罪なし故わ此言を發し得べしキリストハ實わ神より遣ハされたる者にして神と一体なり其言行中少の過失だも見出すとあしもしキリストが自己を神ありと言ひしと偽りとせバ他わ數百千

言の僞りを語りしあらん然れども少もかゝる事あるを見ず又或ハキリストを狂人と云ふ者あるか新約書を飜き見るゝ少もかゝる迹なし又狂人ゝして豈ゝよく人を愛する己の如くあるを得んや且つ其眞理を語るの力或ハ其生涯を考ふるゝ其神あるとや明けし

予ハ今亞米利加に在る學生ゝ代り諸君ゝ問ハん諸君もしキリストを神の子ゝ非ずとせゞ其生涯と敎理を如何ゝするや決して理解すると能ハざるべし由是觀之キリストの神の子たるまた疑ひなきあり

○基督敎の事業ハ聖靈の感化を要す　（本間氏通譯）

昨夜ハ日本を基督敎國とゝすゝ付き聖書の働の大なるを論せしが今夜ハなは他ゝ必要なる事柄あるとを語るべし元來基督敎の事業にハ四の必要なる事あり其（第一）ハ神より智識を得るため聖書を研究すべきと（第二）ハ祈禱すべきと祈禱の大なる力あるハ諸君の知らるゝ所あり（第三）ハキリストの神あるを証するとなり其方法ハ公會の演說或ハ一個人の働を以てゝすとあり（第四）ハ見るべからざる觸るべからざる聖靈の能を受るとなり何れの國ゝても有力なる說敎者ハ此四の者を全くせざるハゝしもし此四の中一を欠けゞ少も働をゝすと能ハざるなり

此四のものハ實ゝ傳道上の要素ゝして其一を欠くと能ハずまた其一を全ふするものハすべてを全ふするものなりたとへゞよく祈る者ハ必ず聖靈を受けまた聖書を讀むと

を怠らず而して神の恵み深きと其他すべての事を悟る此の如くあれば傳道の精神湧き出で、默して止む能わざるに至るべし又よく聖書を讀む人わ祈禱の必要を悟るものあり而してよく祈るものわ必ず聖靈の賜を受く心わ聖靈の溢るゝもの如何わして默止するとを得んや必ず人わ對つて証せざるべからず然らば此四の者其一を欠く可ふず其一を持てる者わまた他の三をも全ふそる者と云ふべし」

キリストが我等わ望む所の一事あり即ち我等の心強くなるべき事あり何故此事を望み給ふか他おし神の道を傳へて世界を基督教國となさんためなり而して世の人わ道を傳ふるとわ一町或わ一市中の僅かおる有力家わ任せず多くの人わ任せたり約翰傳十四章十二節を見るわ「我を信ず

る者わ我行とおろの事を行ん且此より大なる事を行べし」といへりよく此語を考へ見よ僅々十二人の弟子や或わ德ある者智慧ある者力ある者と云わず「我を信ぜる者」といへりこわ何の時代何の場處何に種の言語を用る者わ拘はらずすべてキリストを信ずる人わ望めるものあり「我を信ずる者」といへば一丁字を知らざる無學の人わても病の爲臥床わ在る者わてもすべてキリストを信ずる者を指る者わして此の如き人わキリストの行せし事を爲し能ふとの意なり又右の語の中わキリストの仕事よりも大なる事をなすとありこわ如何おる意なるか

或人わ之を解釋してキリストが五六千の大衆わ少しのパンを分け與へしごとき事を我等がおすの意ならんと云ひ

又ヲザロを避らせしと或いガリラヤ海上を歩みしときの事を我等がおすこゝろならんと云ふ成る程是等い大なる事ゝ相違おし或る夜キリストの許へ來りしニコデモキリストの行し事い人の力ゝあらず神より來りし大おる力あるを認めたり然れどもこれキリストが世ゝ來りし目的ゝあらず奇跡い何のためゝ行しかと云ふゝ喩へて云へバキリストが神より來りしことを証據する手形たるなり今予日本ゝ來り各地を巡覽せんとするゝ必ず此國の政府より旅行免狀を請ひ受けざるべからず此免狀あれバ何れの地ゝ旅行免狀を示すゝてゝ往來するとを得べし故ゝ予ゝ到る處ゝ之を示さいるべからずかくなせバとて予が日本ゝ來りし目的は決して旅行免狀を示すためゝ來れりと云ふ可らず予ゝ

たゞ善き業をなさんがためゝ來れるものゝあり即ち日本學生ゝ基督教の眞理を傳ふるの目的を以て來れるなりキリストゝ失ゝれたる者を見出さんために世に臨れりかつてエリコを出づる時ザアカイゝある稅吏ゝ逢ひ其家ゝ到りしが其時キリストゝ喪ひし者を尋て救ゝん爲ゝ來れり」と云へり然らば我等キリストを信ずる者の行すべき事も奇跡を行すゝあらず人を救ふべき事ゝあるや明かなり此「大おる事」ゝ付きゝは解く所ゝあるべしキリスト傳道の三年間大勢の人其教を聞きキリストを信じたる者ゝ數百人なりしゝあらん然れどもキリストの昇天後使徒達が一時ゝ三千人を悔改せしめたるゝ比れバ其働の大小如何ゝやこれキリストの事業ゝ五六倍せるものなりされども是れ又

彼等の手柄わあらずたゝ彼等がキリストを信じたるわ由るあり彼等固より智慧あるわあらず力あるわあらずたゝキリストを信せしわ過ぎざりし而してよく此の如き偉業を爲り今日わても亦然り米國わ一の職人ありしが諸方わ行きて傳道せしわより千百の人を導きたり今日本の社界中わゝ隨分有名有力の人あらん然れども如何に有名ありとて彼れキリストを知らざれば其名其績ゝ天國わ知られざるなり之わ反して一丁字を知らざる者わてもキリストを信ずる者ゝ神の業をおして天國にて大わ喜ばるゝ者となり後ち彼處わ至る時其の景狀ゝ天わ輝く星の如くあらん

何故我等此大なる力を得るか今讀みし處より進んで十六

節を見よ「われ父わ求ん父かあらず別わ慰る者を爾曹わ賜て窮なく爾曹と偕わ在しむべし」とあり我等ゝ此世わ於てキリストと偕に生活せんことを願ふものなり「キリストもし我等と共わ住まゞ大なる福あらん」とゝ蓋し信徒万人の意想あらん成る程一應尤もの樣あれどもキリストゝ決して爾が思ゝざりしなりかつてキリストゝ「我往ゝ爾曹の益あり若ゆかずば訓慰師なんぢらわ來らじ」約翰十六章七節と云へり故わキリストゝ我等と共わ此世に住まざるも常わ訓慰師即ち聖靈を送れり其力や秘密の勢力わして永遠無窮變るとし

聖靈の力わて大ある事をなすと云ゝ或ゝ笑ふ者あらん兎角人間ゝ物質なる肉体を有せるを以て五感の働を以て

試驗せらるるとゝ何事も信じ難きの傾きありされども彼の大洋を渡るとき丘山をあして來る所の波濤を見よ其勢實ゝ悽じきものあり而して其一滴の水を取りて蒸發せしむれば消へて迹なし水の力ゝ實ゝ見へざる所ゝ存するなり又彼の砲丸の如き數里を隔てゝ巨船を碎くべしと雖も其力も亦見へざる所ゝ存せり我等目以て聖靈を見る能ゝず手以て聖靈を攫む能ゝずと雖も其力や實ゝ大なり聖靈とゝ或る一の物体中ゝ含める力を云ふゝあらず即ち聖靈なる塊りゝありて其中の幾部分が力なりと云ふにゝあらざるなり聖靈それ自身生きたる力なり故ゝ聖靈を受たると云ふときゝ其力を受けたるものゝあり聖靈の性質ゝ付てゝ我等十分ゝ知ると能ゝずキリストゝ此世ゝ降りゝ人間の中ゝ住ひ共に食せし事あれば其性質を知り得るも聖靈ゝ未だ形を以て世ゝ降りしとなきを以て十分之を知ると能ゝずたゝキリストの語ゝ由て之を信ずるなりキリストゝ「聖靈臨りて我事を証す」といへり實ゝ聖靈を受たるものゝよくキリストの有樣を辨へ知ることを得るゝあり而して神ゝ此聖靈を誰ゝも惜みなく與ふべきことを告げたり即ち聖書中ゝ人の親たるものがその子のパンを請ふとき必らず之を與ふるがごとく神ゝ必らず聖靈を求むるものゝ之を與ふべきを敎へたり然らば之を求むるの念あるもの必らず之を得べきなり諸君ゝ熱心之を得んとする乎我等聖靈の力ゝて大なる事を爲すべしと云ひしが如何ゝして聖靈の力を顯すべきかと云ふゝ日々の生活上言行ゝ

之を顯はすべきありもし我等聖靈を受けたりと云て如何
ゐ口は滑るとも行之ゐ伴はずゐ未だ其人聖靈を受たるゐ
あらざるあり聖靈を受たる者必ず言行共に一致すべし譬
へゐ今茲ゐ人あり犯罪の廉を以て裁判所ゐ引られん其辨
解する處誠に明瞭ゐして罰すべきの箇條ゐし然るに他の
裁判官出で來りて之を復審するゐ前後矛盾少も一致する
となし是れ其心ゐ眞實なきの証據あり此の如き時は後の
裁判官は其得る所の事實ゐ基きて之を有罪と決すべし今
我等安息日毎ゐ怠りなく會堂ゐ集り聖書を讀み說教を聞
くも家ゐ在りて家族ゐ對するとき無情不慈なる擧動をゐ
し或は朋友ゐ對して信愛の情なく又商買上不正直あると
きは其行は基督信徒たるの名義を消すものなり一方ゐは

信者たる振をし一方ゐは行ひ之ゐ伴ふことなくゐ眞の信者
と云ふ可からず是れ其心ゐ聖靈あきの致す所あり聖靈は
よく言行を一致せしむ此聖靈の力ゐより言行一致神の榮
を顯はさんとせゐ容易ゐ大ある行をあし得べし諸君は今
心ゐ聖靈を受ることを願はざる乎

昔し二人の青年あり其母と共ゐキリストの許ゐ來りキリ
スト王位ゐ坐するときは一人を右一人を左に置かれんと
を請へり其時キリスト答へて汝は我受る「バプテスマ」を受
け得るや我飲む血を飲み得るや父の備へたる者即ち父よ
り聖靈を受けたる者は之をあし得べしと云へり果して其
言の如くヤコブ、ヨハネある此二人の青年は後來非常の力
を以て神の道を証し刀鋸鼎鑊も懼れざるゐ至れり予は幾

度となく繰り返すべし諸君聖靈を受るの心おき乎今此處がエルサレムと變じ或い大おる迫害起るとあらんに諸君いよく其危害お堪へ得るや又諸君い其心聖靈お滿され逢ふ者お神の恩を傳ふる力ありや

○永遠の生命

（宮川氏通譯）

約翰傳六章廿八九節お曰く「是お因りて人々イエスお曰けるい我儕如何なる事を行ゞ神の工お爲べき乎イエス答て彼等お曰けるい神の遣し丶者を信ずるい卽ち其工なり

今引き來りし聖書中の語い千八百年の昔ユダヤ人ゲキリストに對つて發したる疑問の語なりユダヤ人い常お如何

ある事を爲さゞ神を慰ることを得べきやと思ひ是お付て始終思を凝らしたり予い日本お來り諸方の宮寺を遊觀せしお多くの男女遠き國々より詣る者あるを見たり彼等の心中何があるかと問ふお如何お如何なるユダヤ人も常お如何お如何の一念あるなりユダヤ人も常お如何お如何お神を喜ばすべきやとの考ありし故今キリストお逢ふや否かゝる問を發せし也而してキリストの答ふる所如何と云ふにたゝ「神の遣し丶者を信ずるい卽ち其工なり」と云へりまた他所お「まことお〳〵お爾曹お告ん人の子を信ずるものい無限の生命を得」とあり實お信仰い基督教お入るの鍵とも云ふべく又門戸とも云ふべし基督教お於てい信仰こそ神を喜ばす働きあり故お今我等何を信ずるや又信とい何ぞ又如何お

信ずべきかを論ずべし

信仰ハ必要のものなれども智識上の信仰あるときハ何も益ハ立ぬものなりアレキサンダアハ古の英雄ソクラチスハ古の賢人ナポレオンハ近世の英雄ベーコンハ近世の學者あると誰れしもよく知て信ずる所あれどもかくの如きハたゝ頭上の信仰のみハして益する所なしキリストを信ずると云ふときハ其神の子救主あることを信じ任するとあり智識上より之を幾百年研究すとも少も得る處あかるべし

信仰とハ頭腦の事ハあらず譬へバ今茲に予病ハ罹るとあらんハ醫者來りて之を診察せん其時予ハ心より醫を信じて接くべし其ハ由て病も癒さるゝことを得べし約翰傳一章十二節ハ「彼を接ろの名を信せし者ハハ權を賜ひて此を神の子と爲せり」とありこゝハ「接」又「信せし」とあるハ二つとも同じ意味なり故ハさきハ讀みし所のユダヤ人がキリストハ尋ねしその答も「神の遣し、者を接る云々」とするも不可あし然れバ我等キリストを眞實心より受けて之ハ任すと肝要ありこれ即ち眞の信仰の意なり信ずるとゝ接る事なるハすでハ明かなり然らバ如何ハ接るかキリストを我等の朋友として接るとなるか又キリストハ我等ハ道德上最良の模範として接くるとあるが師匠と

を遺せり又我等靈魂上の王とあれり然れども馬太傳一章二十一節ハ「かれ子を生ん其名をイエスと名くべしそハその民を罪より救ハんとすればなり」とあり然らバキリスト

を我等の救主として接るゝ最も大切の事たるなり

救主とゝ如何今ま人を救ふゝ種々の方法あり病人ゝ藥を與へて其死を救ふとゝあり或ゝ河中ゝ陷りたる者ゝ陸上より繩を投げて引上げ救ふことあり然るにキリストの我等を救ひしと大ゝ是等と異れり彼得前書二章二十四節「かれ木の上ゝ懸て我儕の罪を自ら己が身ゝ任給へり」とあり

キリストゝ己が身を殺して人を救へるあり嘗てスコットランドの山村に一婦人あり一日山路ゝ行き迷ひしが折から大雪降り頻り一歩も進む能ゝず且つ寒風肌を刺して得堪へぬばかりなりその上我身獨りゝあらず幼き一人の子をさへ抱へれば如何ゝせんと思ひ煩ひたり時ゝ幸ひ傍らゝ岩陰ありしかゞ之れ究竟の場所とこゝへもたれより暫く小歇を待ち居たり然るゝ雪ゝます〳〵降り積り身ゝます〳〵冷へ渡り今や胸ゝ抱けるゝが子の生命も覺束なくあれり親の情耐へがたく自ら着たる上衣をぬぎて小兒を包み岩陰に伏させ置き自らゝ其傍ゝて身を風雪に暴せしかゞ憐むべし翌朝ゝ至りて全く凍へ死せり又或大火の時一美婦人家外にありけるが己が女の一室に臥し居たるを救ひ出さんと室内ゝ飛込み難なく其兒を救ひ出せしものの今まで美しかりし花の顔ゝ燒け爛れて見る影もなくゝれり實ゝ是等ゝ愛情の切なさゝ其兒のためゝ己が身をも忘れたるものと云ふべし

キリスト是等ゝ似たる話あり

キリストゝ我等のためゝ木ゝ上りて贖とゝあれりといはゝ

諸君の中にそれ道理に合へるとか否かとの考起り來るあるべし今例を擧げて之を解すべし米國に於て南北戰爭の時徴兵令を布き其中從軍を好まざる者に代人を出すとを許したるがナポレオン一世の時佛國にても此の如き徴兵合を布きたるとあり其頃或人代人を出せしに其者戰沒せり後再び兵員を募集せしとき徴兵事務官前の者に來り再び徴集の令を與へたり然るに其人拒んで命を奉せず掛り官大に怒り汝に狂人ありとて引きて遂にナポレオンの前に至れり帝に靜かに之を聽き成る程一度國のために生命を捧げたる者あれば再び生を捨るに及ばずとて放ち遣りしと云ふ

キリストに我等の代人として罪を贖へり神如何に我等に迫るとも最早我等生を奪へる氣遣あし是

れ正義の仕方あり法律の旨に合へる事あり

キリストがエルサレムにて宰司等の手に在る間有名なる一人の重罪囚ありて牢獄に繫がれたり其名をバラバと云ふ此者國を亂せしために囚の身となれり而して當時ユダヤ國に祭の日に囚人を赦すの例ありなば今日魯西亞英吉利等にて帝王命を下して罪を特赦そるとあり日本にても憲法發布の大典を祝して天皇陛下大赦を行ひ給へるがごとしピラトに民をしてキリストを赦さしめんとしキリストとバラバを指名して孰れを赦すべきかを問ひしに衆人バラバと叫びて遂に之を赦せり其時獄守バラバに此命を傳へしとき彼に如何に思ひしや殆んど我を信ぜざる心持せしならん而して牢獄を出でキリストの後に其處刑場

は伴ひ行きしあるべしキリストが十字架を脊負ふたるを見て汝此人汝我がためは殺さるゝと云ふことを感じ又刑場は着き備へたる穴ありて十字架を建てキリストが其上は非常なる苦痛を嘗めしを見しとき彼の心如何なりしぞ必ずキリスト汝我ためは十字架は釘けらるゝかと深く感せしとなるべしこれたゝバラバは限れる話はあらずキリスト汝實は我等のためは十字架はかゝれり諸君如何は思ふや靜かは考ふべき事あり

キリストが十字架は掛りし時其両側は二人の盗賊共は十字架は掛けられたるが一人は救はれ一人は亡びたり之は何故なるか一人は善人はして一人は惡人なりしはよるか否な一人は罪を持ちあがら十字架はかゝり一人は全く其

罪をキリストは任せたる故之を取り去られたるあり今日はても世の中は此二種の人あり一方は救はれて天は昇り一方は亡びて地獄は下なり諸君は今此を去るとき罪を負ひて去ると罪を棄てゝ去ると孰れが樂しきもし身は罪を持てるときは一世の夢醒むるとき大は悔むとあらん

一人のキリスト死して衆人を救ふとは大切の事柄なり予今死して諸君を救ひ得べくは喜んで死んなは了解し易からんため一人がすべてを救ふとは付き譬を設くべしたとへば米國南北戰爭の時グランド將軍南方は擒とせられたりとせんか北方は其生捕れる數百千の南軍兵卒を還して將軍の身を贖ひしなるべし又日本と支那と戰爭起り萬が一は日本の元帥支那は擒とせらるゝ事あらんは日本人

の其生捕れる數百千の支那兵を還して之を贖ふなるべし

キリストの造物主あり無限の神あり其貴さの物の比すべきおしグランドも日本の元帥も有限の人間なれども其一身の數百千人ゐ闘せる此の如し然らばかゝる貴きキリスト一人が千万人のためゐ死して身代りとなり人を救ひ得ると理の當然おらずや神と之がためゐ人の罪を赦すと無論の話あり

以上述べし所ゐて信仰とゝ何ぞ何を信ずるかとの道理ゝ畧ぼ明かならん今終りゐ臨みてなほ一言せざるべからざる事あり默示錄末章十七節ゐ「願ふ者ゝ價なしゐ生命の水を飲べし」とあり亞米利加ゐてゝ婚禮の時敎師男女の間ゐ立ち先づ男子ゐ對つて汝ゝ好んで此女を接る心ありや」と

問ひ次ゐ女ゐも同樣の問をなす両人然りの一言ゐて目出度婚儀を整へ夫婦合歡の樂を受べし神が我等ゐ望む處も亦此の如し神我等を愛し我等も神を愛し然る後天ゐゝ穩か人ゐゝ恩寵あらん神ゝ實に喜んで我等に與ふべし學生諸君諸君ゝ果して喜んでキリストゐ從ふ心ありやもし此心あらば已ゐ永遠の生命を得たるものと知るべきあり

（本間氏通譯）

○青年會のためゐ

青年會あるものゝ多人數集る所ゐゝ要用おる機械おるが之を組織するゐゝ格別大衆あるを望まず少數ゐても實用ゐ立つことを目的とせざる可らず其之を組織する所の人物も亦學識智慧ある人を選ぶゐ及ばゞ聖靈ゐ滿され性命を

抛つの人物を選ぶと必要あり舊約聖書を繙き見るわ古來神の業をなせし者常わ少數を以て大業を成就せり彼のギデオンがイスラエル人を率て敵わ對ひし時總勢三萬二千ありエホバ之を見て多きわ過るとなせしかバギデオン之を減じて三千二百とせりエホバ尙ほ之を多しとせし故また減じて三百とせりエホバ見て宜しとあしギデオン之を以て敵わ對ひしわ一擊にして敵を走らせりさらバ事を爲すわ精神を以て第一とあす內部わ精神あくバ如何に外部ハ廣大に見るも何事をも爲し得ざるあり昨年來予ハ諸國の青年會を巡視するわ數年前四五人の者寄集りしも彼等ハ人の靈魂を救ハんとの確乎たる目的を以て集りし者あるを以て漸々增加して已わ幾十百倍して五十、五百、五千

の人數となれり今此大坂わ働く所の青年會も熱心ある青年さへあれバたとへ其數ハ五人、六人、十人に足らぬとも遂わロンドン、ニューヨーク、シカゴ等の大都府わ於ける青年會の如くなるべきなり

今や日本各地わ青年會の踵起せると實わ賀す可き事あり又恰かも好時運わ際會せるものと云ふ可し何とあれバ從來英米諸國青年會失敗の迹わ鑑み其失敗を繰返すとあけれバ也日本の青年會ハ未だ幼少あれども他國の履歷を有せる青年會わ鑑みて大あある利益を收むることを得べし既に京都東京わハ基督教青年同盟會ある者起れり今其趣意を聞くわ同盟とハ互わ氣脈を通じ同一の事業をあす合衆体の者わしてその主義ハキリストが世を去る前「あんぢ我を

世ゐ遣し、如く我も彼等を世ゐ遣せりと祈りし言ゐあり故ゐ其會員たる者キリストの如くゐして世を送るを以て旨とあすキリストもし富貴ありしならば我等も富貴なるべしキリスト貧賤ゐ安せしならば我等も亦貧賤ゐ安んずべし此主義を以て集りし者あれば生涯基督教の事業を爲すを以て目的とすべき也即ち商業ゐ學問ゐ凡百の事に於て基督教の主義を發揚するゐ在るなり固より我等ゐ職業を抛棄して ゐ基督教の事業を爲すと能ゐざるあり所謂基督教の事業と ゐ種々箇條もあるべき事あれども最も大切なる ゐキリストの迹ゐ倣ふとゐりキリストが世ゐ來りし ゐ喪ひたる者亡びたる者を救んがためなり故ゐ青年會員たるものも之を以て志とせざるべからず

キリスト世に在りし間神の聖靈常ゐ彼と偕ゐありし如くゐ我等も聖靈と偕ゐあるをつとむべきなり此事あくゐ其事業ゐ死すべし故ゐ日々に祈りて聖靈ゐ絶られざる可らず

キリスト世ゐ在りしと僅か三年ゐ足らざりしが時々靜閑ある山中ゐ入りて使徒等と共ゐ祈りて父より力を受たり

キリスト自身神でありながら祈りて心を强めたれば まして如何ゐ世ゐ立とを得んや

或人ゐ祈禱のため時を費すを惜めども我等多端ある事業を爲せば爲すほど祈禱ゐ多く時間を與へざるべからず

マルチン、ルーサーゐ「毎朝祈らざれば事業を爲す能ゐざ事業多きゐ從ひ多く祈るべし」と云りアブラハム、リンコルンゐ

政廳ゐ出る前半時間ゐ必ず或所ゐ往きて祈禱せり後來四百万の奴隷を釋して自由の民とせしゐ其祈禱の力ありと云ふべし青年男女が七八年も學校ゐ在るゐ後來世ゐ立て事業を爲さんとて準備をなせるものなりされば基督教の事業も篤き祈禱を以て準備せざるべからず左もあくば一も成就すると能ゐざるなり

なほ大切なるゐ聖書を研究する事あり昔しキリスト道を傳へし時聖書を引きて論証し又「パリサイ」人其他の敵が言ひ逆ひし時も常ゐ聖書ゐ基きて辨解せり實ゐ其胸中聖語を以て充滿せりと云ふべし我等聖書を知らずば如何ゐして敵の火箭を防ぐことを得んや

以上述べたる四ヶ條ゐ青年同盟會の規則とせる所なり之を以て同志社中ゐ段々運動を始めたり其人數ゐ僅かゐ十二人位なれども彼等よく思慮して此事ゐ從事せり彼等之を人々ゐ勸るも濫りゐ加入を望むゐ、あらずよく考へて後加入せんことを望めり予ゐ今大坂青年會も此擧を賛成せられんことを望む予ゐ今日本會の組織を以て不完全なりと云ふゐあらず決して之を毀つものゐ非ずされども若し同盟會を賛成せば或ゐ從來の規則を改正するも可あらんかム

―デー氏ゐ「誠實なる十四五人の青年相合して事を爲ば世界を轉覆す」と云り此日本のシカゴなる大商買地最も人衆の集れる大坂にて諸君熱心ゐ此事ゐ盡すあらば必ず大なる働きを爲すことを得べし

○イエスキリストを拒むの大なる罪あり

（宮川氏通譯）

今説かんとする所の者の極めて重要の事柄なり若しそれ哲學或の學術等の事柄あれば一時之を五魔かし去るも生命ゐ關の程のとなかるべしされども今述んとする所の人間の生命ゐ關のるとなれば十分思慮を廻らして靜かゐ研究せられんとを望む、諸君の中病む者ありて醫者を聘し診察を請ふとありとせよ醫師一診して後ち適當の藥劑を與ふべしもし其時諸君勝手ゐ其分量を增減するとあらば遂ゐ生命を失ふゐ至るべしキリストの實に人間心靈上の醫師なり我等其言ゐ從ひ心の病を癒さるべきゐ勝手氣儘ゐ己の心ゐ從ひあば決して救のるゝとあし約翰傳三章十八節ゐ「彼を信ずる者の罪ゐ定られず信せざる者の既ゐ其罪さだまれり蓋神の生たまへる獨子の名を信せざるゐ因」とあり彼を信ずる者とのキリストを信ずるとあり神救主を與へしゐ之を拒んで接けずば其罪の大なると知るべきあり

今こゝゐ一人の大病人あらんに醫師來り其携へたる藥を出し「此藥の是迄百人が百人迄を癒したり足下も亦之を服用せば全快ゐ至ると請合なり」と云のん然るゐ病者醫師の言を信せず遂ゐ其生命を失ひたり多くの病人中其病症の惡きがためゐ死る者あるべしされど今此病者の藥を服ざりしために死したるものとせよ全く我より好んで死を招きし者ありキリストの與ふる救を受ざるの恰も之と同じきものあり予の今イエスキリストの名ゐ由て諸君ゐ勸

む諸君の心の病る者わあらずやキリストわ由て癒さるべき者わあらずや予い諸君わ理が非でも信せよと云わ非ず安信せよと云わあらず靜わ己が有様を考へて信せよと云ふなり約翰傳十六章八九節を讀わ「かれ來らんとき罪わつき義きわつき審判わつき世をして罪ありと曉しめん罪わ就てと云るい我を信せざるわ因なり」とあり「かれ來らんとき」とい「聖靈」の降る時をいひ「我を信せざる」といキリストを信せざる事を云ふ

人間の性質中「恩知ず」ほど卑む可き者おし昨日の話わ例わ引きし美麗ある一婦人い親の情として其身を忘れ最愛の女を火中より救ひ出せり爲めわ今迄花月を欺くばかりの容貌も燒け爛れ瘡い癒えしもの、其後い戸外へ出るわ顔

覆を着けたり其娘成長して一人前の女となり一日大道を歩行せるとき向の方より一人の顔覆したる婦人近寄來り物言えんとて顔覆を外せしわ其顔の醜さ、かゝる人中わて物言いれていい我身の恥とや思けん此娘い脇を見て走り行きたり諸君い如何お思るゝか此醜き女い此娘のためわい産の親、しかも己が命の危かりし時火の中をも冒して助け呉たる恩愛深きわが親なり噫、かゝる不幸不埒ある女い寧ろ最初火中わ燒死せし社よしならめ其親心わ取りても腸を斷の思せしあるべし予幼少の時誤つて河中に落ち既わ危かりし時親切ある人の通行するわ逢ひ直ちに救ひ揚られたり其後其人に謝せんとすれども姓名を聞糺すこと能いざりし故何人ありしや廣き世界に今更之を詮索するわ

面おし今諸君の中門前に流るゝ澱川ゐ落ち込み予之を救ひ揚げたりとせんゐ後日予が貧窮ゐ迫れるを見るとき諸君の懷中一錢の貯へあらば必ず喜んで與ふるとあらん是れ人の情あり禽獸ふてもあは恩を記す人ゐして報恩の念なき將た之を何とか云いん

今諸君暫くの間路加傳十章三十節より三十五節までを讀で考へられよ

イエス答て曰けるいある人エルサレムよりエリコゐ下るとき强盜ゐ遇り强盜その衣服を剝取て之を打擲き瀕死ゐして去ぬ斯る時に或祭司この路より下しが之を見過ゐして行り又レビの人も此に至り進み見て同く過行り或サマリアの人旅して此ゐ來り之を見て憫み近よりて油と酒を其傷ゐ沃これを裹て己ごの驢馬ゐのせ旅邸ゐ携往て介抱せり次日いづるとき銀二枚を出し館主ゐ予て此人を介抱せよ費もし增ゞ我かへりの時なんぢゐ償ふべしと曰へり

此話い此ゐ記せる所より別ゐ詳しく說くを要せず元來エルサレムよりエリコゐ至る間い山路ゐして盜賊徘徊行旅甚だ穩かあらず今此旅人いエルサレムよりエリコに下る途中强盜出で來り打擲き て其携ふる所の金品を奪ひ去れりコダヤい氣候頗ゐ温熱あれゞ此人い燒けつく路傍に打ち伏て苦み居たりしならん時ゐ此へ通り掛りて親切ゐ取扱ひ呉たる者いサマリヤ人ありコダヤ人い常ゐ人を惡む癖ありしが殊ゐサマリヤ人を惡みたり故ゐもしコダヤ人

おしてサマリア人の倒れたるを見るときハ必ず見過しにすべかりしならん然るハ此サマリヤ人ハ途上ハ倒れたる者のユダヤ人なるを知り又或ハ強盗傍の山林ハ潜み居て再び出で來り己をも血塗ハするとあるかも計られざるとをも知りしならんされども彼れ少も之れハ頓着することなく馬より下り其近傍ハ水あきを以て自ら携へたる葡萄酒を以て瘡を洗ひ又油を塗り布片あき故自分の衣を裂き然る後己の馬ハ乘せ今少しく苦痛を忍バヽ直ちハ宿屋あるべしと慰めて旅館へ連れ往き旅館へ着せし時寐床ハかき乘せ額を撫でヽ痛を和らげ窓を開きて涼風を入れ終夜眠ることあく眞實なる心を以て介抱せしあらん翌日自分ハ用事あり出立せんとする前宿屋の亭主を召び費もし足らずバ

倍して還すべしとて持合せの金を與へたりされバ旅館の主人ハ實ハ此人のためハ喜んで此怪我人を介抱することを承諾せしあらんかヽる親切なる人果して世ハあるべきか然り實ハ其人あり イエスキリスト即ち是なり

此ユダヤ人ハ病癒えエルサレムハ歸りサマリア人ハ往くべき處ハ往き自己の所用終り歸途エルサレムを過るとありとせよ此サマリア人ハユダヤ人ハ別るヽとき其宿所姓名を尋ね置きたるとありて今其家を尋ねたりしハ其時もし此サマリア人を家内ハ逗留せしむれバ近所合壁に惡まれ商買上不都合あらんとを恐れ此ユダヤ人ハ之ハ面接するとあく奴僕ハ命じ主人ハ留守ありとして追ひ歸さしめたりとせバ如何此の如き恩知らずの輩ハ其國中又二人となな

かりしあるべし實に此人の恩を報ずるを怨を以てせるものあるもし宿泊を許して隣人喜ばずとせば其途中にて危難を助けられしとを子細に語らば誰も咎るとあかるべし今諸君の中に諸君の恩人ある救主を捨或の今之を捨つゝある者多きを以て予と其大罪の極に至らざる中救ひ出さんと思へるなり

世界中にキリスト程親切なる朋友なし神が世の人の罪に陷りたるを見て如何にしてか之を救んと思ひけるとき我自ら降りて其勞を負ふ可しとて世に臨れりキリストの神の右に坐する時の万乘の君より貴く其富の宇宙万有皆な掌中の物其宮殿の美しさの何に譬へん樣もなき程なれども人間を救んためにの冠を脱し笏を投じ最も汚賤なるナザレの大工小屋に住めり其幼少の頃の粗末ながらも住むべき家ありしに救の業に取掛りて定りたる家もなくかつてエルサレムに在りし時橄欖山の樹蔭に一夜を過せしとありキリスト自ら「空飛ぶ鳥の巣あり地面ふ虫の穴あれど人の子の枕すべき所なし」と云ひしの實に眞なるかな其敎へを垂れし時大勢の者群り來り非常に身の疲勞を覺へたれば時々閑靜なる處に避て休息せり一度ガリヲ海を渡れる時嵐吹き荒れ浪躍り立ち同伴の者驚怖せる中キリストの晏臥して何をも知らざるものゝ如し之れキリストにの神智神力備りて何物をも怖れざるによると

と云ふ何の意ぞ　キリスト自ら人間の罪のためゐ苦みて之を救ひたんとの意あり

斯く最も親切なる愛心深きキリストが我等のために非常なる働をなし而して其結果い如何と云ふにユダヤ人のためゐ卑怯なるピラトの許へ引れたりピラトい之を吟味するゐ少も罪の問ふべきなし如何ゐ卑劣野心なるピラトも之を助けんと思ひたりしも其場ゐ群り居たるユダヤ人の「十字ゐ釘よ」と叫びたるため遂ゐ彼等ゐ渡して死刑ゐ處せらるゝことなれり猛惡なるユダヤ人前後を擁して處刑場ゐ進みし時い必ず天使之を見て悲歎の情を催せしならん而してキリストい十字架上に淺間しき最後を遂げしがその十六時間の苦痛のためゐい其心も張り裂けことゐ人間

罪惡のかくも天地を貫くばかりの有樣なるを見てい一入其苦痛を增せしことならんキリストい其時仇人のためゐ祈りしごとく今もゐは釘痕ある手を廣げて我等のためゐ祈り我等を潔めつゝあり彼のサマリア人がユダヤ人の門戸を叩くごとくに今諸君の心の戸口に來りて頻りゐ戸を叩けり諸君い情なく之を逐遣らるゝや將又接入て共ゐ歡ばるゝ心なりや諸君生命を得んとて此恩人ゐるキリストを接るためゐどで人言を顧るに遑あらんや少も人を懼るゝの用ゐきゐりもし人を懼れてキリストを接けざるか遲速い兎もあれ一世の夢醒め神の前ゐ出るとき哀み齒噛みて前非を悔んされども其時すでゐ遲し悔るもまた及ぶなし唯々苦痛の餘り「あゝ山あれ、岩あれ、己が上ゐ墮よ」と叫ぶの

み其時こそ磨石を頸ふ懸られて海の深ふ沈られん方なは益ある思あらん予も一度ハキリストふ逆ひしが聖書を讀み罪の赦さるゝことを記せるを見直ちふキリストふ從ふ者となれり諸君心の戸を開きて平和と喜樂を享よ予の願ふ望む所なり而して基督教い實驗的のものふて聖書にも「兩曹之を爲んとすれバ神の意を知るべし」とあり故ふ誠實研究する者ふ於て決して了解せられざるとなきなり

ウヰンヤルヤ氏演說筆記終

明治廿二年八月二十日印刷
同　年八月廿一日出版

價六錢

發行者　大坂西區土佐堀三丁目卅八番屋敷　今村謙吉
編纂者　大坂西區土佐堀三丁目卅八番屋敷寄留　中川内十郎
印刷者　大坂北區老松町二丁目百卅七番屋敷　岡本藤五郎
發行所　大坂西區土佐堀三丁目卅八番屋敷　福音社
印刷所　大坂西區土佐堀三丁目卅八番屋敷　福音社

特46
602

ウヰシャルド氏
演説筆記

国立国会図書館

020261-000-2

特46-602

ウヰシャルド氏演説筆記

中川　内十郎／編

M22

ABI-0066